

佐保・鼓阪小学校統合再編計画

早期実現へ市議会に請願書

佐保・鼓阪自治連合会 予算確保解決望む

令和8年4月開校をめざす佐保小学校・鼓阪小学校統合再編問題は、今年9月の奈良市議会で建設費に12億円を追加する補正予算が否決され、建設・開校見通しが不透明になってきました。このため、佐保地区自治連合会（岡崎忠直会長）、鼓阪地区自治連合会（平野康隆会長）は連名で11月7日に市議会議長に新小学校校舎建設の早期実現を求める請願書（2面に全文掲載）を提出しました。12月の市議会で再度この議案が審議される予定です。

請願書の趣旨は

- ◆児童数の減少により、複式学級が懸念される
- ◆市議会は全会一致で建設予算を可決している
- ◆両地域で小学校準備委員会を立ち上げ前向きに進めている
- ◆佐保小学校ではすでに発掘調査は終了、教室も移動済

として、子どもたちのために佐保小学校と鼓阪小学校の児童が学ぶ新しい小学校の開校に向けて早期に予算確保を求めています。

4月議会では満場一致で可決された約52億円の建設予算は、資材等の値上がりで工事入札が不成立となり、12億円の補正予算が議会に提出されましたが、「正確な工事費算定ができていなかったのではないか」などの理由で否決されました。市側は「質などを担保しながら見直しをしていきたい」としています。

佐保、鼓阪両地区では若草中学校区新小学校開設準備委員会（会長：岡崎忠直＝2面に委員名簿掲載）を設置、8月24日に第1回会合を開き、「より良い小学校を目指しての議論や開校に向けた諸課題（校名、校歌、校章等）を協議、決定していくことを確認しました。

小学校統合再編について佐保、鼓阪地区では様々な受け止め方が出ています。佐保小学校では10月22日に保護者説明会が開かれ、新しい学校を楽しみに待っている反面、運動場が制限され、

教室も移動するなど工事への善処を求める声が多く出されました。鼓阪校区では、「佐保小まで歩いていくのは嫌だ」「6年生まで鼓阪小に通いたい」という生徒の声もあり、保護者からは「通学路の安全対策が積み残しとなっている」「工事中の学校に通わせるのは問題」との声が上がっています。開校準備委員会ではこうした諸課題を真摯に検討していくとしています。



令和8年4月開校予定の新小学校完成予想図
（出典：奈良市教育委員会HP）

奈良市教委の学校規模適正化計画

奈良市教育委員会が進めている「学校規模適正化」とは、少子化が進んでいる奈良市の児童の教育環境を整える事業です。児童生徒数は1980年代のピークから半減、今後も減少が続いていきます。

鼓阪小学校の全児童数は74名で、10人を切っている学年もあります。児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考えています。より良い教育環境の中で効果的な教育が受けられるように学校規模の適正化を図ることが必要としています。若草中学校校区では、佐保小学校の校舎を建て替え、新しい校舎を建設し、鼓阪小と佐保小を統合、令和8年4月開校を目指しています。

佐保小学校と鼓阪小学校の統合に伴う新校舎建設工事の早期実現を求める請願書

学校規模適正化により佐保小学区と鼓阪小学校を統合再編し、現在の佐保小学校敷地内に新たな小学校を建設する予算は、過去の定例会で認めていただいており、そのことを真摯に受け止め、佐保、鼓阪両地域は新小学校開校に向け取り組んでおります。

今後も統合再編に向けて立ち止まることなく、着実に推進していくこと、また、両地域と行政は何度も話し合いを行っており、子どもたちのために、佐保小学校と鼓阪小学校の児童が学ぶ新しい小学校の開校に向けて、早期に予算の確保等の問題を解決いただくことをお願いいたします。

1 児童数の減少により、今後複式学級が懸念される。

奈良市教育委員会の推計によると、少子化により、鼓阪小学校は、令和6年5月1日時点の児童数は74人で、5年後の令和11年には児童数が51人と予想され、令和9年度からは、複式学級が生じる可能性があるとのこと。また、特に佐保小学校の校舎の老朽化と鼓阪小学区の児童数の減少が深刻な問題となっています。

2 市議会は全会一致で、校舎建設予算を可決している。

市議会は、鼓阪小学校の教育環境の整備のため、佐保小学校に、令和8年4月開校予定の新小学校建設計画が示され、その校舎建設予算については、令和6年3月議会において、全会一致で可決されています。

3 両地域で小学校開校準備委員会を立ち上げ前向きに進めている。

繰り返し対話を重ね両地域とも様々な考えはありますが、我々両地域は、令和6年3月議会で建設予算を決定されたことを真摯に受け止め、未来の子どもたちのためにも、市の示す統合再編案に協力していこうと決定し、両校区で若草中学校区新小学校開校準備委

員会を立ち上げ、現在、開校に向けて取り組んでおります。

4 佐保小学校ではすでに発掘調査は終了し、教室も移動済である。

佐保小学校の発掘調査は既に終了しています。しかしながら、令和6年9月の奈良市議会において小学校建設の補正予算が否決され、開校時期の延期や、事業を見直す等の報道がされております。今後、予想されます市街地における統合のモデルケースとしても、建設工事費云々は別次元の話であります。建築資材等価格優先で教育の質を落とすなどあってはなりません。

統合再編を前提とした建設予算を全会一致で可決し、一方で9月議会では補正予算を否決する等、わたしたちも地域に与える影響は大きく、奈良市議会の「責任は大きなものがございませぬ。奈良市議会には良識ある議論を求めます。

以上のことから、新小学校の早期建設及び開校を切に望みます。

上記お願いいたします。

令和6年11月7日

奈良市議会議長 様

請願者

奈良市法蓮町1157番地
佐保地区自治連合会
会長 岡崎 忠直

奈良市今在家町34番地
鼓阪地区自治連合会
会長 平野 康隆

「佐保小学校の現状」

佐保小学校PTA会長 菅 裕可里

地域の皆さま、日頃より佐保の子ども達を温かく見守って頂きありがとうございます。

現在、佐保小学校は瓦礫と大きな柵で運動場や教室の使用も制限され、ビオトープも無くなり、工事前とは違う雑然とした環境のまま、工事は中断され放置されています。子ども達の窮屈な現状を知って頂ければと思います。

例に挙げますと、身体を動かすのが大好きな子ども達は運動場使用が学年別等の交代制のため、使えない日は我慢して教室の中で過ごしています。教室の数が減り着替えの部屋も満足になく、男女で教室に付けたカーテンを仕切って着替えています。図書室の数も減り、ゆっくり本を読んで過ごしたい子ども達の憩いの場を奪っています。また、放置されたままの工事跡

地には危険なため近づかないというルールを子ども達はしっかりと守ってくれていますが、工事期間が長引くほど、その危険性も長引くのです。

このような状況が未来を担う子ども達に与える影響を考えると不安が募ります。大人の数か月はあつという間に過ぎるでしょう。しかし子ども達は違います。心も身体も成長する大事な時期に、小学校生活の半分近くをこのような環境下で過ごすことになる子ども達もいるのです。先生方は精一杯工夫して考えて下さっています。子ども達はこのような状況でも毎日楽しく過ごそうと頑張ってくれています。

この停滞を一日も早く解消して子ども達の環境改善を強く望みます。

若草中学校区小学校統合再編 協議の経緯

<令和6年>

8月9日

- ▽新校舎建設工事入札が参加者なしで不成立
 ・不成立の要因はコンクリートなど建築資材の価格や人件費の急激な高騰による

8月24日

- ▽第1回若草中学校校区新小学校開校準備委員会
 ・会長に岡崎忠直佐保地区自治連合会長選出
 ・委員26名選任(名簿別掲)
 ・校名・校歌・校章等の協議・決定を確認

8月30日

- ▽令和6年度奈良市議会9月定例会に建設工事債務負担行為額12億2400万円増額する補正予算議案提出
 ・増額前51億1450万円
 増額後63億3850万円
 建物の仕様を維持しつつ、物価高騰を踏まえ見直しによる増額を行う。

9月6日～

- ▽奈良市議会本会議、行財政改革及び公共施設等検討別委員会で審議

9月25日

- ▽行財政改革及び公共施設等検討特別委員会で議案否決。

9月30日

- ▽奈良市議会9月定例会で議案否決

10月19日

- ▽第2回若草中学校校区新小学校開校準備委員会
 ・仲川奈良市長ら市関係者出席、議案否決経緯など説明
 ・令和8年4月開校は遅れる可能性と市側回答
 ・次の開校準備委員会は11月28日開催

10月22日

- ▽佐保小学校で市教委による保護者説明会
 ・工事中の学校の現状など保護者から質問相次ぐ

11月7日

- ▽佐保地区、鼓阪地区自治連合会長が連名で奈良市議会に新校舎早期実現を求める請願書提出

若草中学校区新小学校開校準備委員会委員			
役職	氏名	所属	
会長	岡崎 忠直	佐保地区自治連合会会長	
副会長	平野 康隆	鼓阪地区自治連合会会長	
副会長	藤波 央	佐保小学校校長	
副会長	吉元 祐介	鼓阪小学校校長	
委員	渡部 文雄	佐保地区自治連合会常任委員	
	佐々木真哉	鼓阪地区自治連合会常任委員	
	皿木 博幸	佐保小学校教頭	
	佐々木悠馬	鼓阪小学校教頭	
	菅 裕可里	佐保小学校 PTA 会長	
	小川 優子	鼓阪小学校 PTA 会長	
	大島 國裕	佐保地区社会福祉協議会会長	
	山崎 平次	鼓阪地区社会福祉協議会会長	
	豊田 基城	佐保地区自主防災防犯協議会会長	
	渡邊 良憲	鼓阪地区民生児童委員協議会会長	
	有山 行基	鼓阪地区自主防災防犯会副会長	
	岡崎 きみ子	佐保北部婦人会会長	
	山口 信子	鼓阪地区連合婦人会会長	
	川合 妙子	鼓阪地区女性防災クラブ会長	
	坂上 紀子	佐保幼稚園園長	
	檜内 裕子	若草こども園園長	
	大久保めぐみ	あいのそのこども園園長	
	福井 俊晴	佐保地区自治連合会副会長	
	田村 匡利	鼓阪地区民生児童委員協議会副会長	
	浅川 清仁	佐保地区自治連合会副会長	
	松田 義則	鼓阪地区自治連合会会計監査	
	高松 義直	佐保地区自治連合会顧問	

特別委員会の主な質疑内容

行財政改革及び公共施設等検討特別委員会名簿

委員長	内藤 智司(新生の会)
副委員長	田畑 日佐恵(公明党)
委員	宮池 明(公明党)
	佐野 和則(維新の会)
	岡田 浩徳(自民・無所属の会)
	山口 裕司(共産党)
	北村 拓哉(共産党)
	山本 憲宥(自民党)
	道畑 孝治(自民党)
坂本 美知子(新生の会)	
山出 哲史(無所属)	

宮池 明 議員(公明)

実施設計の納品がずれ込んだため、より正確な工事の算定等行うことができず、入札不調につながったと指摘。「開校を急ぐあまりの無理な工期設定になっていた。今後どれだけ事業費が上振れする

かが不透明。鼓阪小との統合に向けた環境も整っておらず、統廃合はPTA・地域・学校の三者が議論を重ね、合意形成しないといけないのに、市はスケジュールありきで進めてきた」と市の姿勢を批判した。

◎答弁／北谷教育長らは、鼓阪小児童数が本年度74人から26年度63人、27年度は55人で、同年度では、2学年で複式学級になる見通しとなり、「再編は新校舎完成に関わらず予定通り進める」と答弁。

北村 拓哉 議員(共産)

国庫補助金について、「公立学校施設整備費国庫負担金や学校施設改善交付金があるが、計画変更となると交付決定は無効となり、申請をやり直しとなれば着工は早くても26年になる」

<4面に続く>

特別委員会の主な質疑内容

◎答弁／仲川市長は、「より良い教育環境整備」「教育の質の向上」の説明。北村拓哉議員や佐野和則議員の「何が何でも予定通りの事業を進めようとする、その目的は鼓阪小の廃校ではないのか」と跡地利用についての質問に、「特に具体的な計画はない」と説明。

道畑 孝治 議員(自民)

「校舎も一部使えず、グラウンドも半分使えない状態で、大人の感覚なら1年間我慢しようとか、来年になったら使えるかって、考えられるんですが、子どもたちは、こういう考え方はできないと思う。いつまで使えないのかわからない状況で、子どもたちが犠牲になっているのは間違いない。早急に環境を元に戻す必要があるのではないのか。

◎答弁／教育政策課長「グラウンドについては新校舎建設工事が再開するまでの間、グラウンドの調整、使用範囲の拡大については早期実現できるよう費用期間等について協議している」

岡田 浩徳 議員(自民・無所属の会)

「計画の遅れにより9月議会で提案の約6.3億円以上支出しても当初計画していた校舎よりスケールダウンすることにならないのか」

◎答弁／市側「新単価への見直しを行いながら、目指す教育効果や、児童の教育環境に影響がない範囲で予算を少しでも減額できるよう、見直しを図っている。

岡田 議員「10月22日に佐保小学校の保護者の方に対して説明会を開かれたと聞いている。佐保地区の地域の声はどのような声が出ているのか」

◎答弁／市側「早期校舎の建設を望んでいる。子供も新校舎建設を楽しみにしている。何とか実現に向けて動いていただきたい。子供たちは今限られた施設の中で窮屈に過ごしている。工事が遅れる状況であれば、使用制限している運動場や校舎をもっと使えるようにして欲しい。今、小学校の校舎利用の状況を考えると、開校時期は新校舎の完成後が良いのではないのか」との意見があった。

佐野 和則 議員(維新)

「昨日、統廃合について鼓阪小学校に通う35名の子供たちのアンケート結果をいただきました。それによると、1年生は、新しい学校に歩いていくのは嫌だ。バスでも時間が早いので嫌。鼓阪」が大好きです。3年生は、なぜ鼓阪北小学校と一緒にならないのか。6年生までここにいたい。4年生は、学校が新しくなるのが嬉しかったけれど通うのが遠くなる、など鼓阪小を残してほしいという声が多かった。このままなら、嫌々佐保小に通うことになってしまう」

◎答弁／教育長「基本的には非常に鼓阪小に愛着をもって地域で育っている、これは教育の成果であると思っています。それを踏まえて次の集団に子供たち

◇複式学級とは◇

- ◆複式学級は複数の異なる学年で構成された学級
- ◆小規模校の課題と同じく、集団学習の実施に制約がある。運動会や遠足などの集団活動の実施に制約が生じる。
- ◆一方の学年の児童に指導している間、もう一方の学年の児童は自習する必要がある。
- ◆実験、観察など長時間の直接指導が必要な教育活動が行いにくい。
- ◆複数学年を指導するため、教員の負担が大きいなどの弊害が生じる。

の適正な規模に環境を整えてあげることが、さらに子供たちのより良い発達に寄与することだろうと思っています。子供たちの思いはしっかり受け止めながら、次の子どもたちが安心して、次のステップに進めるように、通学路の不安もありますので、教職員にも理解していただきながら、子どもたちにも丁寧にやっていきたいと思っています」

本会議（9月30日）の主な質疑

山口 裕司 議員(共産)

「今後工事費がどこまで拡張するか見通せない。慎重な見直しが必要」

宮池 明 議員(公明)

「建て替えは賛成だが、児童の安全を第一に事業が進むよう工期の見直しが必要」

山本 憲宥 議員(自民)

「無理な工程計画が問題の根底にある。地元関係者の理解が進む丁寧な対応を求める」

鍵田 美智子 議員(新生)

「校舎の老朽化と工事の準備で子どもたちの学習環境が劣化している。質の高い教育環境を提供するため、計画通り進めるべき」

柳田 昌孝 議員(維新)

「より良い教育環境の整備に異論はない。開校期日が市から示されず（工事等による）子どもたちの安全確保の確証が得られない」

◎閉会後の仲川市長の審議総括要旨

「予算の適正執行は、われわれの責任。補正については緊急性があると判断して今議会に提案した」。佐保小の建て替えは「(価格高騰で)公共工事が落札されない事例は全国的にある。議会の理解を得たかったが、今後は質などを担保しながら費用を見直す議論をしたい」と述べ、設計の見直しに関しては、「さらに費用も時間もかかる」と否定。「今後、なるべく早く予算を見直し再度提案する。開校時期については市教委で適切に判断すべき」としています。